

全国で行われている 陸前高田市立博物館所蔵生物標本の復元作業について

岩手県立博物館

平成 23 年 7 月 21 日作成

1. 経緯

津波で大きな被害を受けた岩手県沿岸の博物館等施設のうち、陸前高田市立博物館では、2階建ての建物が天井まで浸水、展示室や収蔵庫は押し寄せた瓦礫に埋もれた。また、当時の職員6名は、全員が死亡または行方不明となった。

4月中旬、陸前高田市教育委員会からの要請を受け、岩手県教育委員会を中心として当館をはじめとする県内博物館・文化財関係者が、陸前高田市職員とともに、同館の所蔵資料救出にあたった。館内の瓦礫の撤去には約2週間を要し、4月下旬になって約10万点の収蔵資料が搬出できるようになった。

2. 生物標本について

陸前高田市立博物館は生物標本も多数所蔵し、昆虫標本約3万点、植物標本約1万5千点、貝類標本等5千点が1階の収蔵庫に収納されていた。すべて砂泥まじりの海水をかぶり、1ヶ月半の間放置されていたため、カビが生えたものや腐敗が始まっているものも多くあった。貴重な標本を残すために処置を急ぐ必要があったが、被災地では設備・物資ともに処置不可能な状況であり、それらの標本は当館に搬入されて復元作業等が行われることとなった。

3. 全国への協力依頼について

当館では、標本の腐敗を防ぐためにできるだけの応急処置を行ったが、標本の洗浄と復元には多くの手間がかかり、当館の処理能力をはるかに超える量であったため、全国各地の専門家の協力をあおぐこととなった。

日頃から交流のある館の学芸員に個別に協力を依頼するとともに、大阪市立自然史博物館に依頼し、西日本自然史系博物館ネットワークおよび昆虫担当学芸員協議会等のメーリングリストを通じて呼びかけた結果、次のとおり協力を得ることとなった。

ア. 昆虫標本

<協力呼びかけ> 4月26日～ <標本送付開始> 5月7日～

<点数など> 約24,000点のうち、約14,000点を全国13道府県19の博物館・昆虫施設へ送り、洗浄・復元作業を行っていただいている（送付先リストは非公表）。

イ. 植物標本

<協力呼びかけ> 5月2日～ <標本送付開始> 5月6日～

<点数など> 押し葉標本の他に、蘚苔類約500点・地衣類約100点などを含む。約15,000点のうち、約8,000点を全国20道府県30の博物館・研究施設へ送り、洗浄・復元作業を行っていただいている（送付先リストは非公表）。

なお、復元が完了した標本は、作業後1年以内に当館へ返却していただくこととしている。また、陸前高田市で適切に管理できるようになるまで、当館で預かる予定である。